

学校教育目標	夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子の育成 ～あかるく つよく かしくく なかよく～
目指す学校像	子どもたちが生き生きと輝く学校、教職員と保護者・地域がチームとなる学校、地域とともに発展する学校、職員みんなが力を発揮する学校

重点目標	1 教育DXで実現させる学びの自律と個別最適化、探究化 2 一人ひとりの多様な幸せ (Well-being)を実現する未来の教育の実現 3 地域の高い教育力を生かしたコミュニティ・スクールの推進 4 子どもの安全を守り抜く教育環境の整備 5 子どもの可能性を最大限に伸ばす、教職員の資質向上研修の充実
------	--

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価			学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力学習状況調査や市の学習状況調査では国語、算数ともに全国、市平均と比べて、概ね良好な結果である。  〈課題〉 ○一昨年の「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問の中で、我が国の初等中等教育の第一の課題として、「学ぶ意義を見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない」という点が指摘されたが、本校においても、同じ課題があると受け止めている。	・児童が主体的に学びに向かう姿の具現化  ・学びの自律化・探究化に向けた情報端末の活用、授業改善	①スクールダッシュボードを活用し、めあてに対して自らの学びを振り返る授業展開を実践する。 ②カリキュラムマネジメントマップを児童、保護者に配付し、家庭との連携強化を図る。  ①研修主任を中心に学校課題研究を推進し、ICTを効果的に活用した授業研究会を年に3回を行う。 ②全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、教務担当や研修主任等を中心に授業改善の進捗状況を見直す。	①教室を参観し、毎時間黒板にめあてが提示されているか。また、学びの指標校内平均で 0.2 ポイントアップしたか。 ②児童アンケートで授業の取組状況のA評価の割合が60%に達したか。  ①授業研究を年間3回実施することができたか。  ②全ての教職員で授業改善の方向性を共有する場や時間を設定することができたか。					
	〈現状〉 ○不登校や不登校の傾向にある児童、発達や情緒の側面において様々な特性をもつ児童など、個別に配慮を要する児童が増加している。  〈課題〉 ○様々なストレスや生活の変化が子どもの心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実  ・誰一人取り残さない教育の推進	①定例の教育相談・特別支援教育委員会に加え、必要に応じて会議を開催し、具体的な対応策を検討する。  ②外部講師等を招いて、不登校対応に関する研修会を各1回ずつ行う。  ①スクールダッシュボード「おはようメーター」を活用し、見取りを補う兆候を早期に発見する。 ②「Sola るーむ」を利用する保護者等どうして情報交換する場を設け、保護者をサポートする場を設ける。	①学校が学年会やケース会議などチームとして機能し、効果的に児童一人ひとりを指導・支援している。  ②講師を招聘した研修会を開催することができたか。  ①「おはようメーター」を効果的に活用し、早期に兆候を発見し対応しているか。 ②30日以上欠席している児童数が昨年度に比べて減少しているか。(R7:20名)					
3	〈現状〉 ○登下校の見守り活動や、チャレンジスクール、自治会・育成会・PTAを中心としたスクールサポートネットワークなど、地域学校協働活動が充実している。  〈課題〉 ○学校評価(教職員、保護者)、市学習状況調査において、「地域への愛着や誇りを高める指導」の項目の肯定的割合が他項目と比較して低い。	・学校運営協議会を核とした課題解決に取り組む学校  ・学校安心メールと学校HPを活用し、積極的な情報発信	①学校運営協議会で目指す児童の姿に迫る協働活動を計画、実践する。 ②熟議で得られた課題を踏まえ、次年度の学校経営方針を作成する。  ①ホームページを更新する体制を構築し、1週間に一度情報発信を行う。また、ホームページに新たな項目を設けて情報発信する。 ②安心メールとスクリレを効果的に併用し正確な情報を素早く発信する。	①問題、課題解決した様子をホームページ等で発信することができたか。 ②第3回の学校運営協議会で次年度の学校経営方針を説明できたか。  ①ホームページの更新頻度が増加しているか。また、新規のページを新設することができたか。 ②学校評価の「情報を伝えている」の項目で、A評価の割合が50%以上に達したか。(R7:47.8%)					
	〈現状〉 ○エアコンの不調を含め、日頃から施設、設備の面で異常を覚知した場合には、全教職員で情報を共有し、必要に応じて関係各所と連携協力を図り、早急に対応している。  〈課題〉 ○体育館の雨漏り、窓の開閉等の修繕については引き続き市に要望していく。児童一人ひとりが主体的に考え、行動する「エージェンシー」をはぐくむことが必要である。	・安心安全な教育環境、学習環境の整備及び充実  ・児童による「安全な生活・美しい環境」取組推進	①安全主任等と連携し、日常的な安全点検を確実に実施し、また、事故発生前に危険箇所等は、迅速な修繕を行う。 ②学校事務職員や教科等主任が中心になって購入希望物品等を整理し、教育環境の充実を図る。  ①特別活動主任等と連携して、児童どうしの話し合い等を実施し、児童自らが安全で安心な学校づくりに参画する意識を醸成させる。	①学校評価の「学習環境が整えられて活用しやすいか」の項目でA評価の割合が35%以上に達したか。(R7:保護者31.7%) ②教科等部会で予算執行状況等について話題にして話し合えたか。  ①児童同士で安全・安心な学校づくりに関して話し合う活動を実施することができたか。					
5	〈現状〉 ○本校における教職員の時間外在校時間の平均は約23時間であり、市の平均を大きく下回っている。  ○数名の教員が教育研究所で開催されるパワーアップ講座に参加し、自主研修に励んでいる。	・自らのキャリアアップを目指し、自らの強みを生かせる教職員集団づくり  ・教職員一人ひとりがwell-being(幸せ)を味わえる職場づくり	①教室訪問や職員室等で職務の様子を観察し、適宜指導と支援を行う。特に初任者の育成に向け、5年目までの教職員への声掛けを重視する。 ②パワーアップ講座など、自主的に取り組む「研究と修養」について、人事評価面談の際に、具体的な講座を話題にして説明する。  ①運営委員会等において、学期1回程度、業務改善について議題にし、主体的な働き方改革を推進する。 ②教職員事故を防止するため、報道等を活用し根拠に基づき適宜指導を行う。	①職員室で教職員どうしの会話がが多く、助け合う雰囲気に満ちているか。教員等の勤務に関する意識調査で肯定的な回答の割合が前年度を上回ったか。(R7:教職員91%) ②教育研究所が主催するパワーアップ講座に教職員が新規で参加することができたか。  ①1か月の時間外在校等時間の平均時間が30時間を下回ることができたか。総合健康リスク値を維持できたか。 ②教職員の日々の発言や行動において、リスク意識を高めることができたか。					

